

2022年度 日程

	事務局会議・運営委員会他	内容
4月	事務局会議（7日）	
5月	運営委員会（26日） 徳重支所	顔合わせ 全体会、運営委員会の開催方法について
6月	●全体会（21日）	・活動報告、活動計画、決算予算、会長・副会長選任
7月	事務局会議（26日）	
8月	運営委員会（25日） オンライン	・部会再編について ・近隣地域包括ケア病棟の利用調査報告
10月	事務局会議（14日）	
11月	運営委員会（24日） 緑区役所	・各部会から集約した地域課題の議論。
12月	★みどりっこひろば（14日）	
1月	★第11回 障害のある人もない人も共につくる緑区民のつどい（20～26日）	イオンモール大高（みどりアートフェスティバル）最終日は、みどり福祉の店と同時開催
	事務局会議（17日）	
2月	南ブロック連絡会（20日）	・南ブロックの共通の地域課題の討議（障害者支援課認定支払係、4区（緑・南・天白・瑞穂）の区役所・支所・保健C・基幹C） ・各区から地域課題の文書を市に提出
	運営委員会（16日） 緑区役所	・重層的支援体制整備事業について ・権利擁護部会準備会について

- ・南ブロック会議・・・年5回（6/14、8/9、10/11、12/13、1/31）
- ・名古屋市自立支援連絡会 年3回 ①7/13 ②11/8 ③3/23

2022 年度 緑区自立支援連絡協議会 活動報告

1 活動の柱

協議会の活動については、感染症対策を講じた上で取り組んでいきます。開催方法について、対面で開催するかオンラインでの開催するかについては、状況に応じてその都度、協議会構成員の皆さんの意見を聞きながら検討していきます。

1. 昨年度から行っている地域課題への取り組みを強化するための「課題別の部会」への再編成について今年度も引き続き検討していきます。

課題別の部会への再編は、2007 年から積み重ねてきた経過を大事にしながら、各部会で丁寧に議論を積み重ねて検討していきます。

新しい運営規定に盛り込まれている権利擁護・虐待防止の研修会を開催し、虐待や差別などの権利擁護についての取り組みを行う部会（権利擁護部会）について検討します。

2. 研修会などの大人数での集まりに制約が生じている状況ではありますが、引き続き地域の支援力アップの為に、ウェブ会議を活用しながら「ネットワークづくり」に取り組めます。

- ① 部会活動を中心に、事業所同士の交流や、部会の枠を超えた横のつながり作りを目指します。
- ② 当事者参加、構成員のネットワークづくりを引き続き進め、当事者や家族、また事業所も孤立する事がないような取り組みを勧めます。
- ③ 障害分野以外の関係団体との連携や情報共有、ネットワークづくりに取り組みます。

3. 障害がある人もない人も、誰もが住みやすく、お互いに支えあえる街づくりに取り組みます

引き続き、新型コロナの感染状況の見通しが持てないため、感染対策をとった上で「第11回 障害のある人もない人も共につくる緑区民のつどい」の企画に取り組みます。

2022年度 日中居住部会 活動報告

(1) 重点課題

- ① 障害のある方が、地域で安心して働き、暮らせるよう地域づくりに取り組みます。
- ② 事業所間の交流・連携ができる部会活動を目指します。
- ③ 虐待・BCP・地域課題を進める定例会を開催します。
- ④ JOB みどりと、GH 交流会の開催を支援します。
- ⑤ コロナ感染予防に配慮し、対面とリモート会議の良さを取り入れた活動を進めます。
- ⑥ 追加 日中居住部会から連絡会への変更について

(2) 定例会 基本第3水曜日午後13:30~15:00 場所:リモート、もしくは支所会議室

定例会	日にち	場所/参加申込	内容
第1回	7/20	リモート 17名	近況交流・報告事項「HP更新・協議会方針」 協議①部会方針②BCP作成実務講習会③地域課題(グループ交流) その他「基幹アンケート・マップ作成・拠点見学会案内」
第2回	9/6 9/12 9/20	支所会議室 11名 支所会議室 11名 基幹相談室6名	BCP作成実務講習会①②③ 厚労省「業務継続BCP」(自然災害・通所系)のひな形を元に、意見交換しながら実際に作成した。
第3回	11/9	支所会議室 20名	新規事業所 ルメルシス・ハレルベース・ゆいぽ参加紹介 報告 協議会・つどい・拠点見学会・BCP講習会・GH交流会 協議議題 地域課題(余暇・緊急時対応)・虐待研修・有松絞について
第4回	3/2	リモート 28名	椋山女学園大学 手嶋先生による「虐待研修」

手嶋講演会の振り返り。別紙感想参考。次年度は、権利擁護部会へ引き継ぐ

□運営委員会

4/28 5/23 9/2 10/19 12/21(土日お試企画) 1/25 1/30(手嶋先生打合せ) 2/8 3/16
各回、定例会の準備や課題の推進をしてきた。

□種別交流会

- ① JOB みどり 就労系・関心ある事業所と連携し、企画し推進します。
リハス緑の大槻さんが、異動になり、ビジネス講座以降開店休業状態
1/21 絞り組合(大高民生委員)に確認。地元で盛り上げたいが、「ちょっと待って」という感じ。

② GH 交流会 GH・関心ある事業所で企画実施します。場所/希望の家+リモート

第1回	8/16 13名	医療連携について 他事業所との連携について GW リモート
第2回	10/26 14名	テーマ「人材育成」報告とGW ゆたか希望の家副所長 小澤勇太(社会福祉法人ゆたか福祉会) ニコニコホーム管理者 吉安良太(社会福祉法人ニコニコハウス)
第3回	3/8 20名	GHの困りごと、運営、ノウハウについてのアイデア交流会「情報共有・職員教育・日中との連携等」3グループに分かれて、交流。1Gリモート参加3名。

各回、GH 交流会運営委員として フォルテシム・GH ふわふわ・希望の家・ニコニコ・基幹で事前打合わせ
評価と今後は、

(3) 部会の運営委員・協議会の代表について

今年度検討。公募・推薦(再任は妨げない) 代表は、運営委員で決定する。

5/24の運営委員会で代表の件提起。中井さんから、事業所連絡会として参加してきた経緯や部会発足
当時は振り返られた。

(4) 部会の再編について

新しい部会「目的・構成員・活動内容等」の素案を作るために、各部会代表者で議論し、協議会へ提起して
いく。この論議で、さらに会議が増えない様にする。

再編については、8月協議会運営委員会でのアンケートの実施や、日中部会から部会代表者での議論を提
起するが、不調に終わる。基幹での議論では、「〇〇連絡会」と「〇〇部会」の定義や位置づけ、予算の打ち
方、運営委員会への代表参加の有無等、全体から提起する必要アリと議論してきた。

(5) 地域課題

「誰もが安心して過ごせる『余暇活動』を考える会(仮) について

3/14 第1回会議開催 参加 民生委員福島 訪問マッサージうきうき大山 グローバルきずな河合
フォルテシモ福島 ぽぽ三溝 ぱすてる小濱あさみ 基幹三尾・深谷・竹原

1.会議経過の説明

2.意見交換

3.結論 ①区内イベントを紹介していく ②ポーリング企画の秋開催

(6) その他

① 1/20-26 つどい アートフェス → 部会から吉安さん派遣

② 区・支所の授産製品販売 (主催:緑区福祉課)

③ イオン大高「みどり福祉の店」(共催:福祉課・日中部会) → 1/26 代行販売の店もあると良いのでは

④ HP 事業所紹介の更新 6月12月に実施した。→ 1月 HP 全体がリニューアル、事業所参加が課題。

⑤ 事業所へのメールアドレス・fax の再確認。→ 随時確認してきた。

⑥ 就職フェア企画案検討 (1/25 運営委員会) → 企画案として検討したが、色々困難がある事がわ
かった。福祉や障害の啓発を通して、福祉の働き手につながる方法を引き続き検討する。

2022年度 居宅部会 活動報告

◇定例会

第1回定例会

2022年9月9日(金) 13:15~15:15 緑生涯学習センター第1集会室 ハイブリッド形式
「訪問系事業所における災害への備えと、発災時の対応について」
講師:愛知医科大学看護学部在宅看護学 准教授 佐々木裕子氏
参加者 27名 (会場17名、リモート10名:うち居宅事業所は13名)

第2回定例会

2023年2月13日(月) 13:30~15:10 緑保健センター健康増進室+ハイブリッド
「在宅避難を考える」
話題提供:防災についてのアンケート結果について ヘルパーステーションおおばこ 島田和美氏
在宅避難について みどり災害ボランティアネットワーク 岡田雅美氏
参加者 14名 (うち居宅事業所は3名)

◇運営委員会

①4/22 ②6/30 ③10/14 ④11/21 ⑤1/19 計5回対面実施
※11/7に防災ボラ岡田さんと打ち合わせを行った。

◇緑区自立支援連絡協議会への派遣

- ・運営委員会 緑区介護保険事業所 佐野、おおばこ 島田
- ・つどい ヘルパーステーション Re:Life 川村

◇その他

- ・定例会の呼びかけについては、他の部会やケアマネ、いきいき支援センターなど広く呼びかけを行った。
部会構成員だけの部会開催は難しい状況が続いており、部会編成の議論もできない状況。

◇来年度に向けて

- コロナ禍以降、部会として事業所間での交流や議論が満足にできず、地域課題を拾い上げることも難しい状況が続いている。
今後は連絡会としての位置づけで、居宅介護事業所が孤立しないよう連携できる場と交流の機会を探っていく1年としたい。

2022年度 児童部会 活動報告

◇障害児支援連絡会

目的：障害のある子どもたちを支える事業所の交流を行い、横のつながりを作る。市民向け企画の実施。

定例会	日にち	内容	場所
第1回	6月10日(金)	事業所紹介、交流会 参加人数 34名(20団体)	徳重支所
第2回	9月13日(火)	事業所交流会 参加人数 17名(15団体)	ZOOM
第3回	11月25日(金)	みどりっこひろばにむけて 参加人数 28名(22団体)	徳重支所
イベント	12月14日(水)	みどりっこひろば 来場者66名 スタッフ約50名	区講堂
第4回	2月10日(金)	今年度の振り返りと来年度にむけて 参加人数 21名	保健センター

◇障害のある子どもを支えるネットワーク

目的：緑区における障害のある子どもたちを支えるための課題を整理し、必要な資源を作る。

障害のある子どもの関係者のネットワークを作る。

定例会	日にち	内容	場所
第1回	7月6日(水)	緑区自立支援連絡協議会の説明、交流会 参加人数 16名	緑生涯学習センター
第2回	10月13日(火)	講演会 親のメンタルヘルスと家族支援、交流会 参加人数 17名	区役所
第3回	2月14日(火)	不登校を考える会実践報告 参加人数 37名	保健センター

◇不登校を考える会

目的：緑区内の児童に関わる課題についての交流と、関係機関への働きかけ、資源開発。

交流会の1年の成果をネットワーク会議での発表を目指す。

	日にち	内容	場所
第1回	1月26日(水)	各関係機関から不登校の実態を交流	緑児童館
第2回	4月20日(水)	ナーシング有松 実践報告	
第3回	7月7日(木)	緑児童館 実践報告	
第4回	10月12日(水)	メンタルクリニックみなみ、相談支援ふわふわ 実践報告	
第5回	3月15日(水)	1年のまとめ 次年度計画	

一年のふりかえり

- 1) 2年ぶりにみどりっこひろばの開催ができた。
- 2) 児童部会の再編1年目
 - ・連絡会では、ZOOMから対面で行うことができるようになり、活発な交流会が開催できた。
 - ・ネットワークでは、福祉、教育、医療の連携をめざし、顔の見える関係の第一歩を作ることができた。
 - ・不登校を考える会では、緑区の現状と地域の社会資源について深めていくことができた。
- 3) 運営委員会の充実

精神部会 2022 年度活動報告

【2022 年度の取り組み】

- ・グループホーム交流会を行い、精神障害をお持ちの方の、住まいの問題について理解を深めた。
- ・今までの定例会を今年度はテーマ別のお困りごと交流会とし、精神障害の方の支援について意見交換を行った。

●定例会：4回（5/17、9/13、11/14、2/14）

GH 交流会：1回（6/27）

○運営委員会：7回（4/7.5/24.6/28.9/22.11/8.12/6.3/23）

○各種実行委員会・精神部会運営委員会

2022 年	
5/17	第 1 回定例会「お困り事交流会～グループホーム編～」(23 名参加) グループホームふわふわ 丹羽さん
6/27	出張グループホーム交流会 グループホームふわふわにて 計 5 名：管理者 1 名、精神部会 4 名
9/13	第 2 回定例会「お困り事交流会～就労編～」(17 名参加) 就労継続支援 A 型事業所ウル 家田さん
11/14	第 3 回定例会「お困り事交流会～地域課題編～」(14 名参加) 部会編成について
2023 年	
2/14	第 4 回定例会「お困り事交流会～8050 問題編～」(17 名参加) 地域活動支援センターしかやま 横山さん

【定例会 参加事業所】

ウル 相談支援事業所 me 多機能型事業所わかた 地域活動支援センターしかやま
はたらく工房 鳴海ひまわりクリニック メンタルクリニックみなみ ゆたか希望の家相
談支援事業所 ワークセンターメイプル 緑区障害者基幹相談支援センター
※交流会の参加についてはその他多数の事業所

【今年度の振り返り】

- 1) 精神障害の方への支援を考えるという視点で、定例会には部会の参加事業所にこだわらず、幅広く出席案内し連携・横のつながり作りを行った。
- 2) 緑区の地域課題を列挙し、具体的な事例を共有した。
- 3) 来年度は、コロナ禍で数年滞っている精神部会講演会の実施について検討したい。

2022年度緑区自立支援連絡協議会相談部会 活動報告

日程(各 10:00～12:00)	内容	場所
4月18日(月)	新年度顔合わせ、新年度の体制等事業所から近況報告 厚労省主管課長会議、名古屋市集団指導を受けて、その他	オンライン、28名
5月16日(月)	相談支援の在り方について 講師：木全 和己先生	オンライン 26名
6月20日(月)	事業所・相談員交流：グループワーク運営について	オンライン 20名
7月19日(火)	事例検討会：精神の方の支援について 事例提供者：ゆたか希望の家佐藤氏、 助言者：並川氏	オンライン 22名
8月22日(月)	医療的ケア児の支援について 講師：障害児相談支援事業所そよ風 近藤氏	オンライン 19名
9月20日(火)	事例検討会：家族支援が受けられない方への社会生活上の支援について 事例提供書：	オンライン 27名
10月17日(月)	地域課題について	オンライン 22名
11月21日(月)	ぴあサポーターさんから学ぶ 講師：緑区ぴあサポーターお2人	オンライン 25名+2名
12月19日(月)	事例検討：不登校児への支援 事例提供者：もみじ奥山氏	オンライン 26名
1月16日(月)	近況交流、今年度の振り返りと次年度に向けて意見交流	オンライン 24名
2月14日(火)	14日 10～児童部会ネットワーク会議 16日 PM ケアマネサロン：成年後見制度について	区役所講堂
3月20日(月)	次年度の相談部会について	オンライン 20名

* 定例会の内容：相談支援事業所・相談支援専門員の交流、事例検討会・学習会、他部会・事業所との意見交換を行っていく。

* 構成員：季楽指定特定相談支援事業所春風、相談支援事業所ひととま、相談支援事業所ひなゆり、もみじ相談支援事業所、相談支援センターてらす、相談支援ふわふわ、相談支援ぼぼ、相談支援カモミール、相談支援グリーンミント、ゆたか希望の家相談支援事業所、相談支援よすが、相談支援センターなごみ、相談支援事業所me、相談支援ハピネス、相談事業所まり、相談支援事業所神無、相談支援事業所ルドルフ、南部地域療育センターそよかぜ、緑区役所福祉課障害福祉、支所区民福祉課福祉窓口、保健センター

2022年度 強行部会 活動報告

昨年度から自閉症や強度行動障害児者を地域で支えることを目的とした強行部会を立ち上げました。各部会から参加していただくことができ、支援の輪を広げることができました。今年度も昨年度に引き続いて専門的な知識を学び、障害の特性の理解を深めることを目的に行いました。

◇運営委員会

5/6(金)、8/19(金)、11/18(金)、1/27(金)

◇定例会

	日にち	内容	方法	参加者
第1回	6/17(金) 13~15	研修会 「自閉症支援がうまくいかない… 最初にやることは？」 講師 あいぼ奥山	緑区社会福祉協 議会研修室、 ZOOM	28 事業所 35 名
第2回	9/16(金) 13~15	実践報告・交流会 「【構造化】を取り入れた自閉症の特性に合わせた支援～15年の在宅生活から支援につないだ半年間の実践報告～」 報告者 あいぼ奥山 報告者 緑区障害者基幹相談支援センター 佐藤	ZOOM	16 事業所 20 名
第3回	12/17(金) 13~15	グループワーク 自閉症・行動障害を理解する～冰山モデルを知り、支援に生かしてみよう～ 講師 あいぼ奥山	緑区社会福祉協 議会研修室	19 事業所 23 名

次年度に向けての課題

1. 各事業所の職員の参加者を広げる(2022年度78名)。
2. 定例会に参加しやすい時間帯を検討していく。
3. 定例会に参加しやすい受講方法を検討していく。

2022 年度 地域生活支援拠点 活動報告

全区設置を目指した、地域生活支援拠点事業所も、事業スタートから5年経過し、地域によって状況も様々になってきました。2023/4に瑞穂区に拠点事業所が開所することで、北ブロックに続いて、南ブロックでも4事業所の設置となります。他方、中村区の拠点事業所が22年度で閉所する為、東・西ブロックには、1事業所のみでの設置となります。障害当事者や家族の暮らしは待たなして、コロナの影響を受けながらも、今年度はお助けショートステイの利用は増えてきています。

1. お助けショートステイ登録状況

① 今年度登録 (23/3末現在)

26人/計72人 男性77女性23% 愛護52身体32精神16% 一人親世帯38単身4%

② 利用状況等年度

年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
登録数(人)	19	12	14	26
再委託登録		制度無	10件	24件
利用者数・延べ日数 (稼働率)	6名・46日 (12.6%)	8名・71日 (19.5%)	8名・36日 (9.8%)	30名・133日 (36.4%)

※注 利用理由「父子家庭で親の急な仕事・介護者の緊急入院や体調不良・家族とのトラブル緊急避難・拘留期間長くホームに戻れず一時的な居場所」等。2018年度に登録1名あり。

2. お試しグループホーム(体験の機会・場)

年度	2020年度	2021年度	2022年度
利用者数	22名	11名	49名
延べ日数(稼働率)	132日(36.1%)	38日(10.4%)	209日(57.2%)

※注 利用者すべて、親元からの自立を目的とした理由。

3. 広報活動

9.10月に拠点事業所見学会を開催。当事者・家族、支援関係者、民生委員の方など約50名が参加。見学会に合わせて、拠点の備品・持ち物・食事代・費用・日課等の説明書も作成。ニュース発行。

4. 地域の体制づくり

医療的ケア児・者の緊急時のショートステイの受け入れ課題

地域包括ケア病棟を持つ、4病院(緑市民・第1なるみ・相生山・南生協)にアンケートを実施(5月)し、以降懇談を行った。受け入れ実績のない病院もあったが、呼吸器を使用する重度の難病の方を受け入れている病院もあり、病院ではあるが、緊急避難場所の一つとして利用は可能。

5. その他

① 拠点・基幹調整会議(2か月毎)について

登録・利用状況の確認。ケース検討。登録勧奨について。ブロック・市連絡会の課題の検討など。

② 名古屋市連絡会(年2回開催)と、ブロック制に向けての打ち合わせが2度開催された。

③ 千種区自立支援連絡協議会「語り場部会」での、緑区拠点事業についての現状報告。

2023 年度 地域生活支援拠点 活動計画

今年度、南ブロックはブロック制に移行します。利用者や支援者が混乱することないように、ブロックでの連携も図りながら、また必要とされる方が、スムーズに登録・利用が出来るように進めていきます。また、緑区で暮らす方が、安心して地域で暮らし続けられるように面的整備の課題についても検討し進めていきます。

2022年(令和4年)度 障がいの重い人の支援を考える会のまとめ

南区・緑区の重症心身障がいのある大人と子供が利用する事業所の集まりである。昨今は医療的ケアについての話もあり、元々訪問看護ステーションや病院看護師もメンバーだったが、意見を求め共に考え合うことが増えている。ただ、事業所としての話もするが、障がいの重い人にとって、あるいは地域での暮らしについてどうなのかという点を外さないように努めている。

昨年度からの課題と考える会が取り組む内容

- ・防災、特に医療的ケアのある人や避難できない人達について
- ・人手不足・人材育成
- ・医療との連携・医療的ケア児支援法案・3号研修
- ・医療的ケア児支援センターや医療的ケア児等コーディネーターについての情報共有
- ・面的整備・地域生活の維持

毎月の開催内容(基本毎月1回火曜日 13:30~15:00 全てオンライン(会場であれば緑区区役所))

	日程	内容
102回	4月12日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告 コロナ感染 役所の人事 アルコールチャック 虐待防止委員会設置 広報なごや6月号にまいゆめさん表紙 医療的ケア児支援センター開所
103回	5月10日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告 山田優さんのGHの話、30代重心の方の将来 拠点の役割 重層的相談支援事業 コロナ感染 昨年度の総括
104回	6月14日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告 さくらそう谷田さんより事業紹介 南区水防訓練、医療的ケアの必要な方は今後企画していきたい おおばこさん1月に喀痰吸引の事業所として登録 学校看護師近藤さんより現状の話 医療的ケア児等コーディネーターの人数など
105回	7月12日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告 コロナ感染時の事業所判断 ワクチン接種をしてくれる病院 本人家族の高齢化 医療的ケア児が増えている、卒業先 胃瘻手術などの病院 医療的ケア支援センターと南ブロック研修会報告
106回	8月9日(火) 13時~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告 コロナ感染広がっている 抗体検査の有効な使い方 要配慮者利用施設防災懇談会の報告 南ブロック医療的ケア児コーディネーター連絡会報告
107回	9月13日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 緑区日中部会で BCP勉強会あった、居宅部会では防災の話・助けてくれる支援力が必要 コロナでも学校や幼稚園が休みにならなくなってきた 小児医療研究会報告
108回	10月11日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 職員採用できたが他の事業所では人手不足が続いている グリーンミントさん立ち上げ(相談支援) 障害者権利条約の研修報告 にじろのいえ内覧会報告 ウィズコロナで行事再開
110回	11月15日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 夜間だけ呼吸器をつけることになった方の経過 高等部の実習生 コロナ感染者増加 年末年始に向けての調整、帰れない人もいる 映画「普通に死ぬ」の上映報
		24

110回	12月13日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 就職フェアの様子(人手不足) 濃厚接触者になり続けると生活が崩れる 医療的ケア児等コーディネーター研修開催
111回	1月17日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 コロナ対策 にじいろのいえのショートステイお試し開始 相談支援の新規受けられない 主たる介助者が亡くなった方 3号研修
112回	2月22日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 コロナ対策 地域生活支援拠点の動き・医療的ケアのある方の受け入れ 一人暮らしの M さんの報告 医療的加算 主たる介助者が亡くなった方
113回	3月14日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っている事 医療的ケア児支援センターの現状(加藤看護師より) 一人暮らしの M さんの報告 外国の方への支援 介護タクシー試行事業 来年度のテーマ

25事業所 …子ども関係5 大人日中系6 居宅介護3 訪問看護2 病院2 基幹2 相談6

打ち合わせも月1回開催…緑区基幹支援センター カモミール ひととま

まとめ

- ・コロナ禍も ZOOM にて、毎月開催できている。
- ・今年度は、令和 3 年に 9 月に施行された医療的ケア児支援法により、4 月に医療的ケア児支援センターが開所したことで、その動向や、必要とされている医療的ケア児等コーディネーターの話を多く取り上げて、話し合い、情報を共有した。また、支援センター主催の学習会やコーディネーターの顔合わせと現状共有のため南ブロックの集まりも始まった。そのため、関係者や出席者からの報告を聞いていった。
- ・また、東海市に12月開所したにじいろのいえについても、各事業所を利用するご本人がかかわることもあるので、連携作りもしてきた。
- ・ただ、ご本人に医療的ケアが必要になったり、入院中の病院の対応等、コロナ禍という事もあり個々の困りごとについては、情報提供に終わってしまっている。
- ・防災については、医療的なケアのある方の電源や自宅にとどまることについてこの会で確認をしている。南区星崎学区で要配慮者利用施設を集め防災懇談会が年間3回行われ、出席し報告をしてきた。この学区は元々消防団がメインに動き、高齢者の要配慮者を地域の人2人が発災時に支援に入ることが決まっており、高齢化率の高い南区でも進んでいる地域である。そのため、電源が必要であることや、車イスが大きい事、川が近いことなどを話し理解を得ている。ただ、12月の星崎学区の防災訓練に参加した時は、要配慮者が集まる部屋までに階段があり、スロープが出てくるのも時間がかかり部屋自体も教室一室のみ、床は板張りで中々医療的ケアのある方が過ごせる場ではないと感じられた。星崎学区自体の要配慮者の人数が何人かはわからないが、入れないし、利用できないと思った。
- ・各出席者の困りごと共有し出席者で知っていることなどを話しながら解決してきたが、コロナ感染をした時の事業所の開所のラインや、抗原検査の有効な使い方など、3年目になっても、判断を迫られる事が多く、どの事業所も苦慮していることが伺えた。
- ・後半は地域生活支援拠点や、M さんの市営住宅での暮らしについて進捗を報告をし、この会が大切にしている、地域での暮らしについて少しずつ話を進めてきた。色々な立場の支援者の集まりだが、その視点からの意見があり、有意義な時間となる事も増えてきた。

課題

- ・障がいの重い人の地域での暮らしについて ・医療的ケア児等の医療と支援法の動向
- ・障害者権利条約研修 ・医療的ケア児者の防災 ・意思決定について